

岬町に残る爆撃の傷跡

歴史館サポーター 田中 孝之

人口数千、海と山に囲まれた静かなこの山村で、十九人も犠牲者がでる惨劇が起きた。

昭和二十年七月二十五日、この日は土用の日差しが、朝からものすごくきつかった。午前十一時すぎ、「ドカーン」と言う二発の爆撃音が、多奈川谷川全地域に響き渡った。

それから二十分ぐらいたった頃、常見寺の近くに住んでいた母や私の耳に、役場（当時の多奈川町役場は谷川橋から関電へ通じる道との間にあった）ちかくの防空壕で、大勢の人が死んだようだとの情報飛び込んで来た。泉南郡多奈川、今の岬町多奈川に潜水艦の製造工場があった。そのために、この工場を中心に淡輪・深日地区でも、アメリカ軍の艦載機による

攻撃が日増しに激しさを加えていた。

このように軍需工場とは関係のない民家や住民が容赦なく攻撃された時代であった。

ちなみに、その十二日と十五日後に、広島と長崎に原爆が投下されている。

このとき私は。十歳、この犠牲者十九人の中に父親がいた。

だがそのことはさておき、この当時は在日の韓国・朝鮮の人達が、この工場で大勢働いていた。

この防空壕での死者は十七人と言うことで、この救出作業はいったん終わったが、しばらくして被爆跡をならした土の一部がくぼみだし、だんだんとそれが大きくなるのを見た近所の人々が、まだ遺体が残されていないかと、土を掘り返したところ、2人の遺体

が見つかった

この十九人の犠牲者の内、半数近くが在日の人達であり、中には身寄りのない方々もおられたので、この遺体は正教寺の無縁墓地に埋葬された。

いま生きておられたら八十〜九十歳、生まれ故郷を遠く離れ、見知らぬ地で最期を看取ってくれる家族もなく、非業の死を遂げた人達に思いを馳せるとき、二度と他国の主権と人権は犯してはならない。

そして戦争・紛争・テロのない平和な世界を築くことが、これらの人達に捧げる「鎮魂歌」だと思う。

8月の休館について

8月12日（金）から15日（月）まで歴史館を休館します

お知らせ

7月7日（木）の朝日新聞の「放浪画家里めぐり」で、孝子の里として歴史館周辺の風景画（川端健太郎）と、孝子の由来である「橘逸勢伝説」の記事が掲載されました。その原画を歴史館に展示しています。一度ご覧ください。

岬の歴史館では現在、「歴史館サポーター」を募集しています。

歴史に興味がある方、町内の歴史を研究したい方は、生涯学習課までお問合せください。

☎ 492-2715

岬町教育委員会生涯学習課